

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10

国立公文書館	
分類	
	返 赤
配架番号	3 A
	14
	32-68-5

陸技壹研三要報第四七号(◎砲10)

昭和十七年七月
陸軍技術本部調製

試製機動五十七糎砲揺架以上機能試験要報

一 試験ノ目的

豫テ大阪陸軍造兵廠ニ於テ試製中ナリシ首題火砲揺架以上完成セルヲ以テ主要諸元ヲ測定シ各部ノ機能ヲ検スルト共ニ射撃試験ニ附シ各種機能ヲ調製シ且抗堪力ヲ検スルニアリ

二 判決

試製機動五十七糎砲揺架以上ハ機能抗堪力概テ良好ニシテ若干ノ修正ヲ施スヲ要スルモ概テ設計條件ヲ満足スル結果ヲ得タリ

三 試験成績ノ概要所見及將來ノ處置

(一) 試験成績ノ概要

No 4045

SHIPPING ADVISE# 10112
SACK # 17
ITEM # 144

めくれず

本試験ニハ搖架以上各二門ヲ使用スル子定ナリシモ搖架乙ヲ使用スル一門製作完了セザリシヲ以テ搖架甲ノミヲ使用シ試験ス

(1) 主要測定諸元

- 砲身重量(閉鎖機共) 二八〇.〇 匁
- 後坐合全体重量 三一九.五 匁
- 搖架以上重量 四四一.三 匁

彈底距離測腔成績及路條寸法測定成績ハ射後検査ノ項ニ記ス

(2) 機能検査

- 自動開閉機能 概テ良好ナルモ葉莢抽出不良
- 安全機能 良好ナルモ操作稍不便
- 葉莢抽出機能 手動ニ依リ閉鎖機ヲ開閉セハ葉莢抽出概テ良好復坐ヲ利用セハ抽出不良

復坐機能

搖架甲ハ復坐節制力ヲ全期間ニ亘リ比較的強ク作用セシメタルヲ以テ復坐速度緩ニ過キ自動開閉機能及葉莢抽出等ヲ考慮セハ稍不良

(3) 射撃試験成績

二帶及十六管ニヨル初速腔圧後坐長後復坐秒時左ノ如シ

藥種	藥量(匁)	初速(秒)	腔圧(匁)	後坐長(米)	後復坐時間(秒)
二帶	〇.八六〇	八二三	二四五〇	一一二〇	二.〇
同右	〇.八八〇	八四九	二六八〇	一一四五	一.八
同右	〇.九〇〇	八六三	二七八〇	一一五五	一.五
十六管	一.〇四〇	八二七	二三八〇	一一八二	一.八
同右	一.〇八〇	八七四	二四五〇	一一九四	一.六
同右	一一.〇〇	八九〇	二六五〇	一一九七	一.五

小ナル爲ト思考セラレルヲ以テ復坐漏孔ヲ改修セハ
之ヲ機能ハ修正シ得ルモノト思考ス

(3) 十六番管状薬ヲ使用セハ常用腔圧(二六〇〇 ψ 程度)以
内ニテ八九〇 $\frac{米}{秒}$ ヲ出シ得ルモ砲架ノ安定砲身命数
等ヲ考慮セハ十六管一〇八〇 ψ ニヨル八七〇 $\frac{米}{秒}$ 附近
ヲ使用スルヲ可トセン薬量決定ニ就キテハ五十七耗
戦車砲ヲモ考慮シ尙研究スルヲ要ス

(4) 砲身測腔成績並ヒニ彈底距離測定成績ニ依レハ起線
部ノ燒蝕比較的大ナルモノト認ム火炮全体ノ研究ト
共ニ此ノ種砲身命数ニツキ研究スルヲ要ス

(5) 復坐ばねニ就キテハ発射弾数少キタメ未タ不明ナル
モ変形量比較的小ニシテ概テ良好ト思考セラル尚変
形量各は毎ニ大ナル差アリ製作ノ良否カ影響スル
所大ナルモノアリト思考セラル、ヲ以テ火炮自体ノ

四 供試兵器材料

研究ト平行シテ之カ製作法ニ就キ研究スルヲ要ス

- 試製機動五十七耗砲揺架以上
- 四十七耗戦車砲射撃台
- 五十七耗九〇式代用彈
- 五十七耗砲薬莖
- 其ノ他試験用兵器材料

五 試験期日及場所

自昭和十七年七月十日 於大阪造兵廠及大津川射場
至同 年七月十五日

六 試験員

- 陸軍中佐 武田文雄
- 陸軍兵技中尉 牧浦甫



